

各自治体の流域治水の取り組みについて

～令和5年度の実績及び令和6年度の予定について～

令和6年2月28日

令和5年度 第2回狩野川流域治水協議会

■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね解消することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■水災害対策プランの対策メニュー（沼津市及び国、県）

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○	○	
		大平江川河道拡幅・護岸整備※	沼津市	ハード対策	○	○	○
		大平江川排水機場の新設※	沼津市	ハード対策	○		
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 沼津市	ソフト対策	○	○	○
		大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
		河川パトによる土砂堆積状況等の把握	国 沼津市	ソフト対策	○	○	○
	雨水貯留浸透機能の向上	都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	沼津市	ソフト対策	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	沼津市	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）	沼津市	ソフト対策	○	○	○
		児童・生徒による地域コミュニティを通じた防災活動	沼津市	ソフト対策	○		

- ・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
- ・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。

なお、※印は「大平地区豪雨災害対策アクションプラン(H24.8策定、H31.3改訂)」記載の対策を示す。



狩野川堤防整備(国)

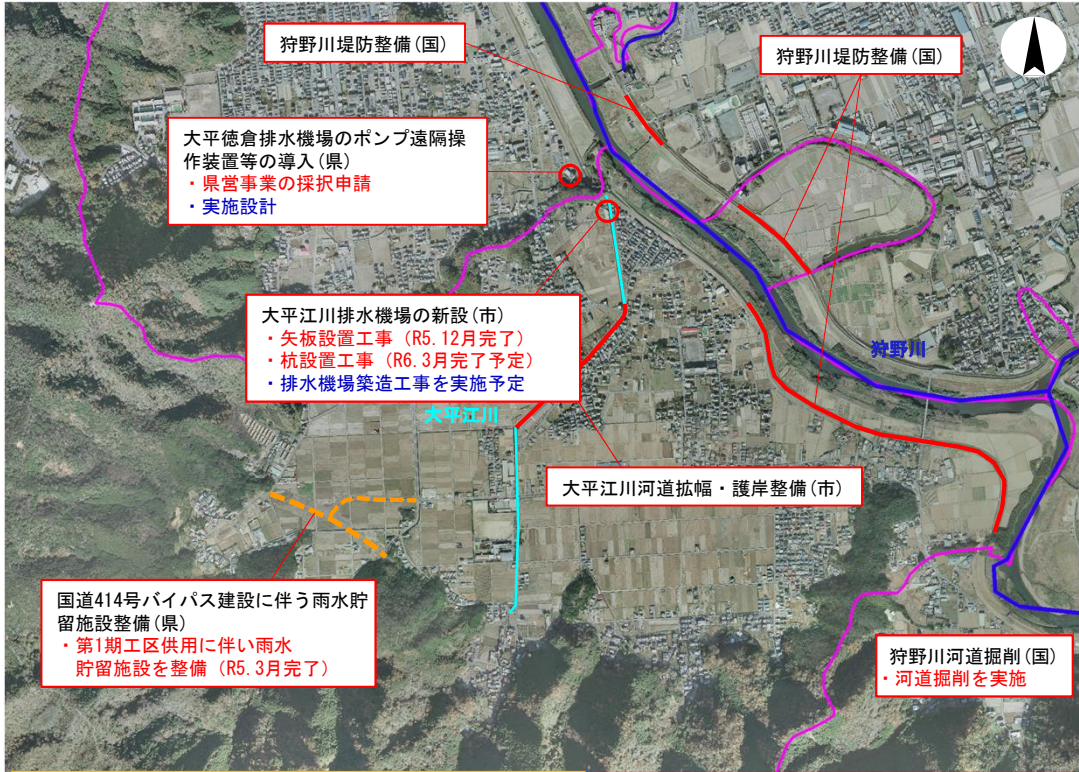


大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入(県)



大平江川河道拡幅・護岸整備(市)

赤字：R5実績
青字：R6予定



- ・ 雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(市)

- ・ 避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(市)
- ・ 住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)(市)
- ・ 児童・生徒による地域コミュニティを通じた防災活動(市)

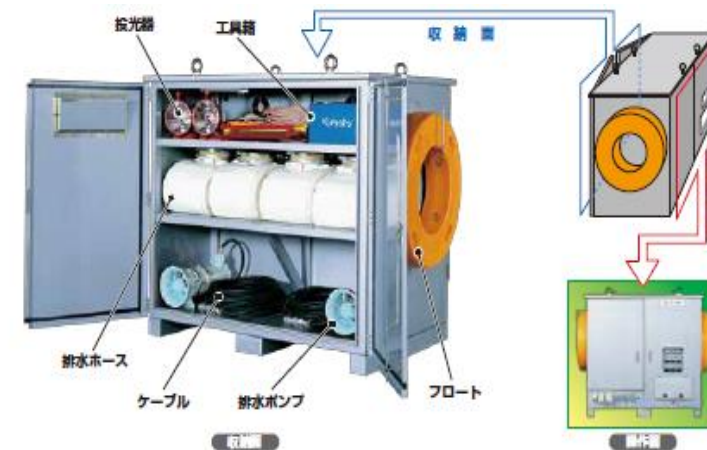
- ・ 許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・市)
- ・ 3年に1回合同点検を実施(国)
- ・ 点検・点検
- ・ 毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・市)
- ・ 河川パトによる土砂堆積状況等の把握(国・市)
- ・ 都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(市)

市町境界
河川(国・県)
河川(市)

近年の激甚化する豪雨災害に対応すべく、非常時に機動的に運用可能な排水ポンプ車及び排水ポンプパッケージを配備し、浸水被害の軽減を図ります。



(排水ポンプ車イメージ)



(排水ポンプパッケージイメージ)

1 仕様

排水ポンプ車 1台

・排水能力 1分間に7.5m³排水可能なポンプを4台搭載

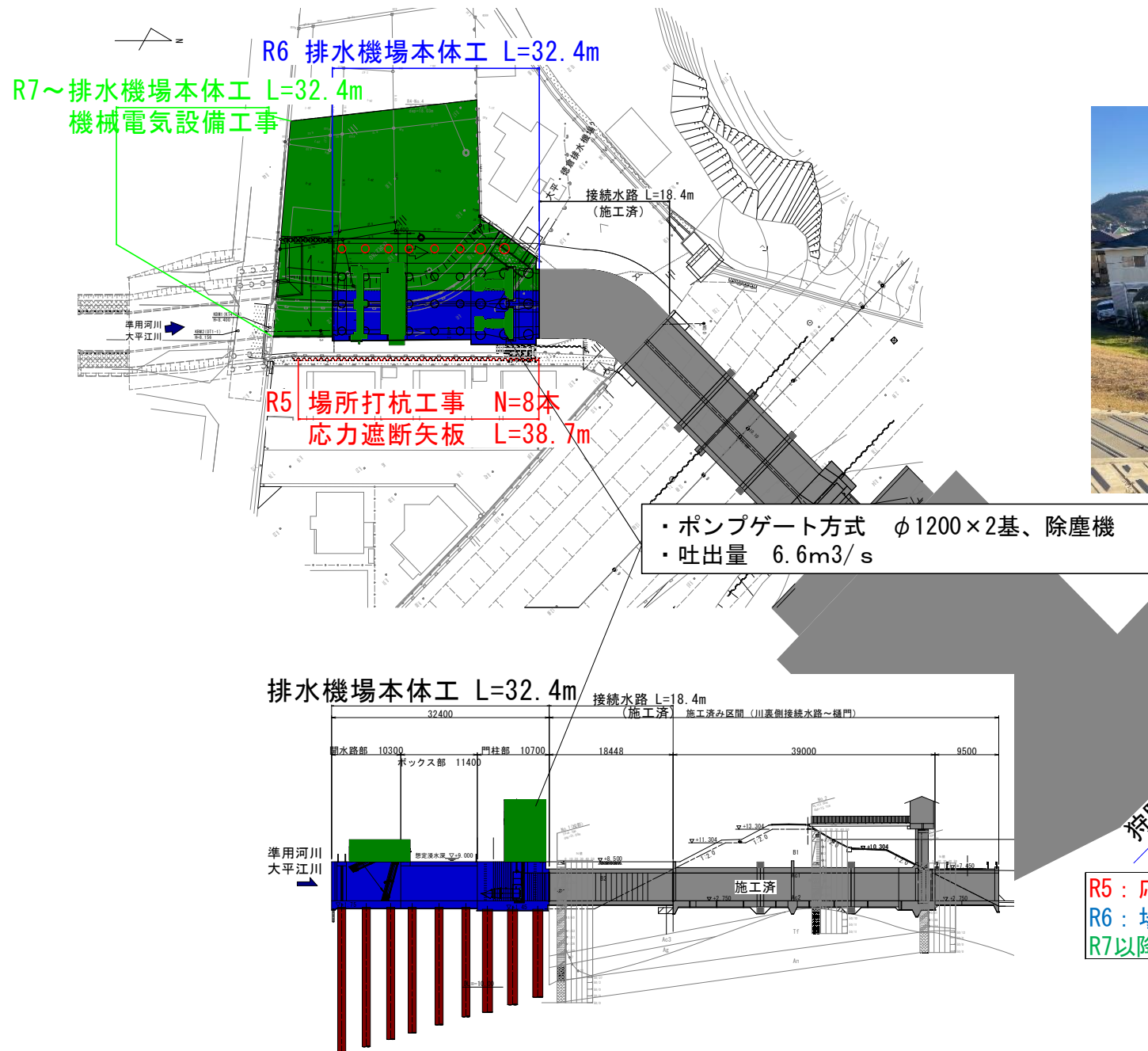
排水ポンプパッケージ 2台

・排水能力 1分間に5m³排水可能なポンプを2台搭載
(1台当たり)

2 導入予定

令和6年9月導入予定 (令和5年9月契約済み)

令和5年度の取り組み実績・令和6年度取り組み予定【沼津市】



現況写真



R5：応力遮断矢板、場所打杭工事8本
R6：場所打杭工事27本、躯体工事
R7以降：躯体工事、機械電気設備工事

■ プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね5割軽減することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■ 水災害対策プランの対策メニュー（三島市及び国、県）

					実施時期			
3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)	
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○			
		境川橋梁改築	県	ハード対策	○			
		境川河道拡幅・護岸整備	県	ハード対策	○	○	○	
		御殿川捷水路整備・河道拡幅	県	ハード対策	○	○	○	
		松毛川排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○		
		境川排水機場の遠隔制御化	国	ハード対策	○	○		
		松毛川河道掘削	三島市	ハード対策	○			
		雨水調整池堆積土砂の掘削	三島市	ハード対策	○	○	○	
		既存調整池の維持管理	国・県 三島市	ソフト対策	○	○	○	
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国・県 三島市	ソフト対策	○	○	○	
		河川バトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 三島市	ソフト対策	○	○	○	
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 三島市	ソフト対策	○	○	○	
	雨水貯留浸透機能の向上	水田を活用した流出抑制(水田貯留)	三島市	ソフト対策		○	○	
歩道舗装透水性化の推進		三島市	ソフト対策		○	○		
都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導		県 三島市	ソフト対策	○	○	○		
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	三島市	ソフト対策	○	○	○	
		立地適正化計画における居住や都市機能の誘導(災害リスクを考慮)	三島市	ソフト対策	○	○	○	
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	内水ハザードマップの作成・利活用	三島市	ソフト対策	○	○	○	
		避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	三島市	ソフト対策	○	○	○
			住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組(マイ・タイムライン普及の推進等)	三島市	ソフト対策	○	○	○
			要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進	県 三島市	ソフト対策	○	○	○
			被災後の早期復旧・復興を図るための洪水浸水区域の土地情報の整備	三島市	ソフト対策	○	○	○
			介護施設等における水害対策に伴う改修等に対する助成	三島市	ソフト対策	○	○	○

・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。



狩野川堤防整備(国)



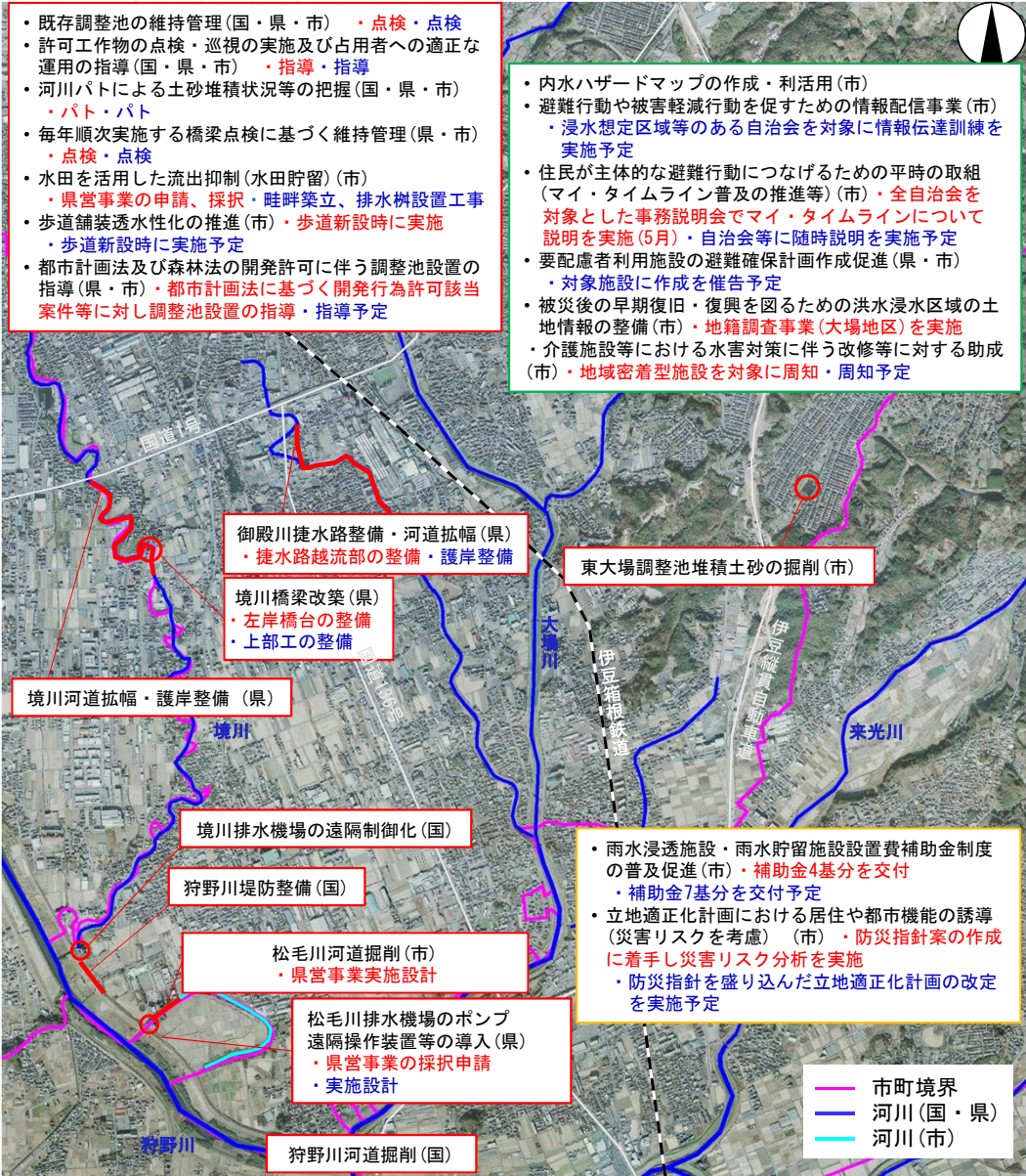
錦が丘調整池堆積土砂の掘削(市)



マイ・タイムライン普及の推進(市)

赤字：R5実績
青字：R6予定

- ・ 既存調整池の維持管理(国・県・市) ・点検・点検
- ・ 許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導(国・県・市) ・指導・指導
- ・ 河川バトによる土砂堆積状況等の把握(国・県・市) ・バト・バト
- ・ 毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理(県・市) ・点検・点検
- ・ 水田を活用した流出抑制(水田貯留)(市) ・県営事業の申請、採択・畦畔築立、排水樹設置工事
- ・ 歩道舗装透水性化の推進(市) ・歩道新設時に実施
- ・ 歩道新設時に実施予定
- ・ 都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導(県・市) ・都市計画法に基づく開発行為許可該当案件等に対し調整池設置の指導・指導予定



- ・ 雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(市) ・補助金4基分を交付
- ・ 補助金7基分を交付予定
- ・ 立地適正化計画における居住や都市機能の誘導(災害リスクを考慮)(市) ・防災指針案の作成に着手し災害リスク分析を実施
- ・ 防災指針を盛り込んだ立地適正化計画の改定を実施予定

令和5年度の取り組み実績・令和6年度の取り組み予定【三島市】

令和5年度取組実績

対策メニュー:避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業

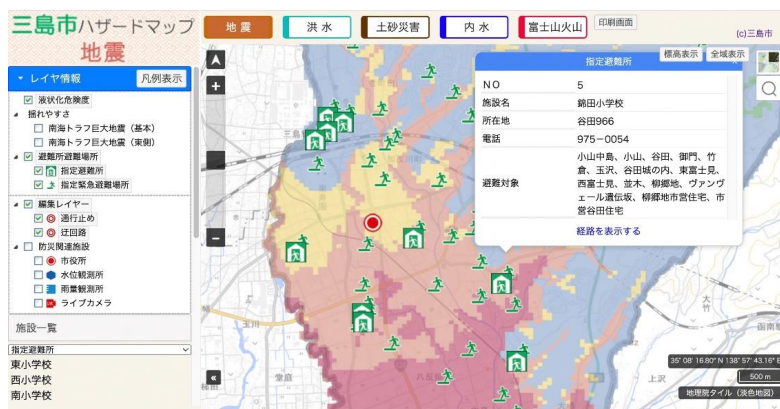
【総合モニタリング 情報配信システムの導入】

国、県、市の各々が設置した河川監視カメラ映像や水位情報を市のホームページ上で公開することで、市民が最寄りの河川水位をリアルタイムで確認できるようになり、迅速な避難誘導に繋がっていく。



【WEB版ハザードマップの構築】

WEB版ハザードマップを構築することで、全24枚あったハザードマップを1画面に集約し、レイヤーで重ねて見る事が可能になった。また、WEB上から誰でも印刷が可能になり、拡大してもぼやけず見やすくなることから、市民の適切な避難行動につながる事が期待される。



令和6年度取組予定

対策メニュー:都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導

【「三島市大場地区土地区画整理事業」における治水対策】

東駿河湾環状道路の大場・函南ICの隣接地において事業化が予定されている「三島市大場地区土地区画整理事業（組合施行）」では、従来の基準に添うだけでなく、国と連携した内水解析モデルを構築し、様々な降雨強度による浸水シミュレーションに基づき、貯留施設の規模・配置の検討を行う等、官民が一体となり、流域治水に資するまちづくりに取り組んでいる。



■ プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね5割軽減することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■ 水災害対策プランの対策メニュー（伊豆の国市及び国、県）

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
已蓋をできるだけ 防ぐ・減らすための 対策	河道流下能力の向上、 戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○	○	○
		韭山古川河道掘削・堤防天端舗装	県	ハード対策	○		
		柿沢川低水護岸の整備	県	ハード対策	○	○	
		宗光寺川河道掘削	県	ハード対策	○		
		戸沢川河道掘削・堤防天端舗装	県	ハード対策	○		
		堂川河道拡幅	県	ハード対策	○	○	
		洞川河道拡幅	伊豆の国市	ハード対策	○	○	○
		江間川流域の浸水対策	伊豆の国市	ハード対策	○	○	○
		韭山古川支川（中條地区）の浸水対策	伊豆の国市	ハード対策	○	○	○
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占用者への適正な運用の指導	国・県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		河川バトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		排水機場（四日町・小坂・宗光寺）の遠隔制御化	国	ハード対策	○	○	
		排水機場（毘沙門・堂川）のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
	雨水貯留浸透機能の 向上	都市計画図及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	県・伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		ため池（長瀬ため池）の事前放流	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		雨水貯留施設の整備促進	伊豆の国市	ハード対策	○	○	
		既存調整池の維持管理	県・伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まいの工夫	立地適正化計画に定める防災指針による対策（隣接市町との連携を含む。）の実施	伊豆の国市・函南町	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	内水ハザードマップの作成・利活用	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
	避難体制の強化	要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進	県 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
		国道414号（小坂地区）冠水対策	県	ハード対策	○		

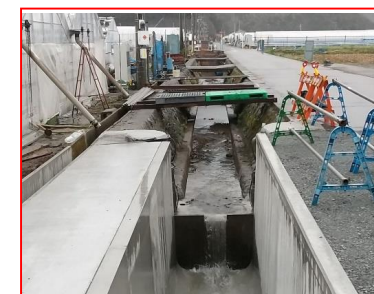
- ・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
- ・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。



狩野川堤防整備（国）



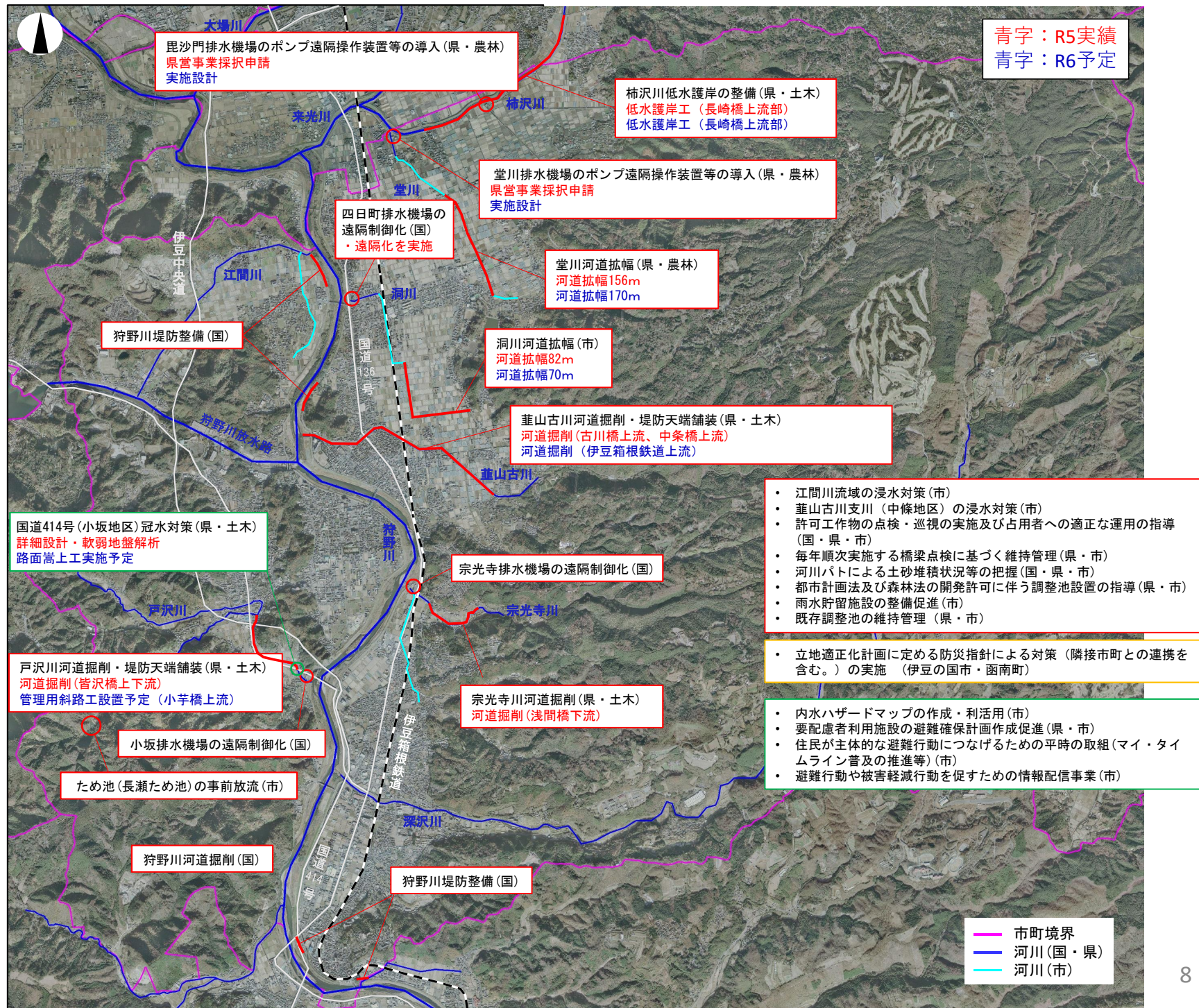
堂川河道拡幅（県）



洞川河道拡幅（市）



ため池（長瀬ため池）の事前放流（市）



狩野川水系流域プロジェクトに基づく内水対策に関し、伊豆の国市原木・長崎地区、四日町地区を対象とし、関係機関による検討を深め、対策内容の拡充を図るとともに、狩野川流域における効果的かつ実効性のある内水対策を推進に資するものとするため、「内水対策勉強会」を開催している。

●参加機関

- ◆国土交通省沼津河川国道事務所（流域治水課）
- ◆静岡県沼津土木事務所（企画検査課）
- ◆静岡県東部農林事務所（農村整備課）
- ◆伊豆の国市（危機管理課、建設課、都市計画課、下水道課、農林課）
- ◆函南町（建設課）※第3回目より参加

●開催内容

◆第5回

- ・日時：令和5年9月6日（水）
- ・場所：伊豆の国市役所 1階災害対策室
- ・議事：
 1. 実現に向けた内水対策の提案
 - ・前回勉強会と今回の内容
 - ・浸水家屋の精査
 - ・各種対策効果の把握
 - ・床上浸水完全解消のための対策
 - ・費用対効果
 2. 意見交換
 3. その他

第5回勉強会の様子



■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水※を概ね4割軽減することを目指す。（※浸水深が45cm以上である世帯を床上浸水とする。）

■ 水災害対策プランの対策メニュー（函南町及び国、県）

赤字：R5実績
青字：R6予定

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川河道掘削	国	ハード対策	○		
		来光川堤防整備・護岸整備	県	ハード対策	○	○	
		柿沢川低水護岸の整備	県	ハード対策	○	○	
		町管理河川の堆積土砂の浚渫	函南町	ハード対策	○	○	○
		排水機場（落合・塚本・新田・稲妻・畑毛）のポンプ遠隔操作装置等の導入	県 函南町	ハード対策	○	○	
		函南観音川排水機場の遠隔制御化	国	ハード対策	○	○	
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国・県 函南町	ソフト対策	○	○	○
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 函南町	ソフト対策	○	○	○
		河川バトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 函南町	ソフト対策	○	○	○
	雨水貯留浸透機能の向上	歩道舗装透水性化の推進	函南町	ハード対策	○	○	○
		新田第一・第二樋管連絡水路新設	函南町	ハード対策	○		
		ため池の事前放流	函南町	ソフト対策	○	○	○
		公共施設への貯留施設新設	函南町	ハード対策	○	○	○
		都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	県・函南町	ソフト対策	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進	函南町	ソフト対策	○	○	○
		立地適正化計画に定める防災指針による対策（隣接市町との連携を含む。）の実施	函南町 伊豆の国市	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	函南町	ソフト対策	○	○	○
		要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進	県 函南町	ソフト対策	○	○	○
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）	函南町	ソフト対策	○	○	○
		国道136号バイパス（塚本地区）冠水対策	県	ハード対策	○		

・ 今後も施設の建替などの機会に応じた流出抑制施設の整備など雨水を貯める取組を継続的に検討する。
・ 上記メニューは、今後の検討等により変更となる場合がある。

- ・ 雨水浸透施設・雨水貯留施設設置費補助金制度の普及促進(町)
・ 3件実施、広報誌にて周知(6月、1月) ・ 6件予定、広報周知継続
- ・ 立地適正化計画に定める防災指針による対策（隣接市町との連携を含む。）の実施(町・伊豆の国市)
・ 計画に反映 ・ 計画の公表予定

- ・ 避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業(町)
・ 安心情報メール登録促進(R6.1月末 7,079件)、防災ラジオ販売促進(R6.1月末 2,429台) ・ 登録及び販売促進継続予定
- ・ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成促進(県・町)
【県】・支援 ・ 支援
【町】・計画作成促進 ・ 計画完成、防災訓練実施予定
- ・ 住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）(町)
・ 防災出前講座による普及推進 ・ R5同様



函南観音川排水機場の遠隔制御化(国)



来光川堤防整備・護岸整備(県)



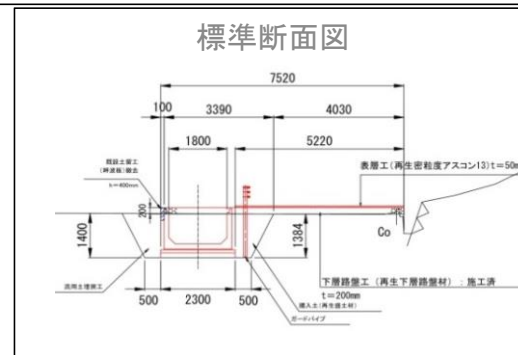
ため池(軽井沢池)の事前放流(町)

水災害対策プラン対策メニュー取組【函南町】

【目的】気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、床上浸水を概ね4割軽減することを目指す。

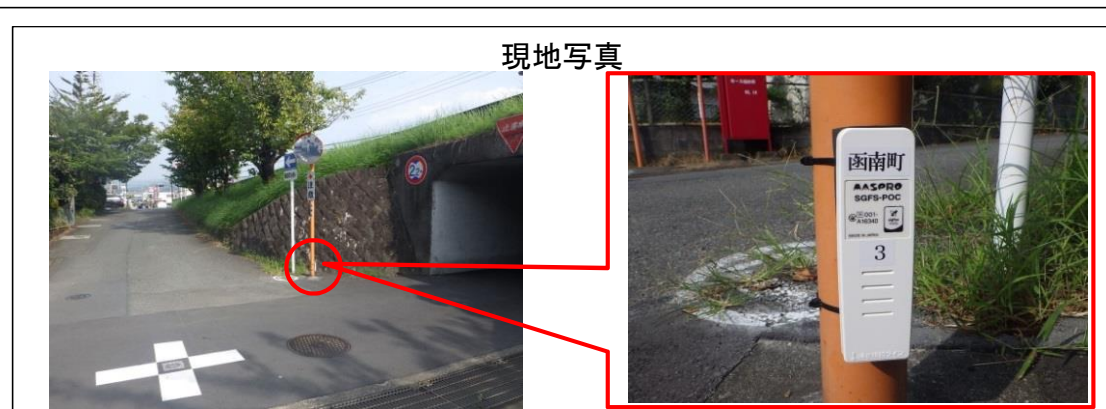
対策メニュー① 新田第一・第二樋管連絡水路新設

【対策名】氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 【施策名】雨水貯留浸透機能の向上
 【概要】新田地区内における連絡水路新設により、機場への導水及び貯留機能の向上を図る。
 令和6年3月完了予定(施工延長L≒138m)



対策メニュー② ワンコイン浸水センサ設置(新規追加予定)

【対策名】被害の軽減・早期復旧・復興のための対策 【施策名】避難体制の強化
 【概要】冠水頻度の高い箇所にワンコイン浸水センサを設置し、早期避難及び省力化の推進を図る。
 令和5月9月設置完了(町内10箇所+3箇所(民間参入))※地上より15cmで設置。
 【課題】現状は、専用サイトでの確認となるが、職員の省力化も含め、メール等でのアナウンスが求められる。



■プランの目標

気候変動により降雨が頻発化・激甚化することを踏まえ、河川及び流域の関係者が一体となった治水対策を進めることとし、今後概ね20年で令和元年東日本台風と同規模の洪水に対して、狩野川本川の溢水を解消する。内水ハザードマップの作成による計画的な浸水対策と避難体制の強化及び住まい方の工夫により町内の水害リスクを軽減する。

■ 水災害対策プランの対策メニュー（清水町及び国、県）

赤字：R5実績
青字：R6予定

3つの対策	施策名	対策メニュー	主体	分類	実施時期		
					短期 (5年)	中期 (10年)	長期 (20年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道流下能力の向上、戦略的維持管理の推進	狩野川堤防整備・河道掘削	国	ハード対策	○		
		境川橋梁改築	県	ハード対策	○		
		境川河道拡幅・護岸整備	県	ハード対策	○	○	○
		許可工作物の点検・巡視の実施及び占有者への適正な運用の指導	国・県 清水町	ソフト対策	○	○	○
		江川及び新川の土砂掘削	清水町	ハード対策	○	○	○
		丸池川・的場川、耕地川の護岸修繕	清水町	ハード対策	○	○	○
		町内河川の樹木伐採及び堤防等の除草	清水町	ハード対策	○	○	○
		大平徳倉排水機場のポンプ遠隔操作装置等の導入	県	ハード対策	○	○	
		毎年順次実施する橋梁点検に基づく維持管理	県 清水町	ソフト対策	○	○	○
		河川バトによる土砂堆積状況等の把握	国・県 清水町	ソフト対策	○	○	○
	雨水貯留浸透機能の向上	都市計画法及び森林法の開発許可に伴う調整池設置の指導	県 清水町	ソフト対策	○	○	○
		既存調整池の維持管理	清水町	ソフト対策	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	土地利用・住まい方の工夫	立地適正化計画に定める防災指針による対策の実施	清水町	ソフト対策	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	避難体制の強化	避難行動や被害軽減行動を促すための情報配信事業	清水町	ソフト対策	○	○	○
		安全な避難先の確保	清水町	ソフト対策	○		
		住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）	清水町	ソフト対策	○		



狩野川堤防整備(国)



施工前



施工後

丸池川護岸修繕(町)

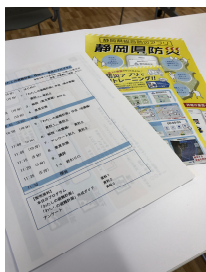
■ソフト対策

住民が主体的な避難行動につなげるための平時の取組（マイ・タイムライン普及の推進等）として、県事業であるわたしの避難計画事業を通して水害時の行動を整理したマイ・タイムラインの普及推進を行う。

令和3年度に町内の中徳倉地区が県モデル地区に選定され、令和4年度から水害リスクの高い徳倉地区から実施している。

令和5年度には令和7年度までの町内全域での策定推進を行うことを県に申請したことにより「わたしの避難計画がんばる市町」として認定された。

避難体制や水害対策設備の計画的な設置の方針を定めるために内水ハザードマップの作成に着手していく。



■ハード対策

土砂の堆積等により河床が浅く、豪雨時の溢水のおそれがある江川及びの新川の土砂掘削を行う浚渫工事業を行うことで、河川の許容水量を増やして流域の浸水被害を防ぐ。



江川



新川

目標：狩野川上流部の河川・砂防設備等の一層の整備推進

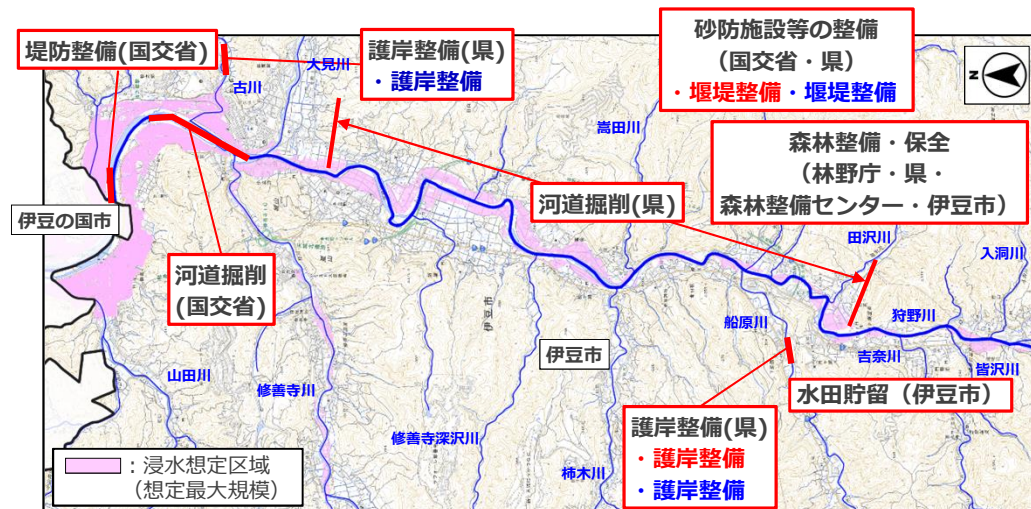
■流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

■伊豆市の地形の特徴

- ✓ 伊豆市は、狩野川流域の上流端に位置しており、大部分が山地で占められており、修善寺川合流点付近から開けた沖積平野（田方平野）が広がっており、浸水形態は山地は貯留型（その場に留まる、浸水深が深くなりやすい）、平野は拡散型（浸水範囲が広がりやすい）となっています。
- ✓ 伊豆市内では、平成16年に支川の修善寺川が被災して以降、河川整備の進捗により狩野川本川・支川ともに越水などの水災害は生じていませんが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の特徴から、市内全域の多くの地区で被害が発生することが想定されることから、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

■伊豆市および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー（案）



※上記の対策は、今後の検討等により変更となる場合がある。

下図出典：国土地理院地図

■流域治水（伊豆市版）の対策メニュー（案）

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	狩野川（支川含）河川整備	国土交通省・県	○	○	○
	都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導	伊豆市	○	○	○
	水田貯留の推進（水田の保全等）	伊豆市			○
	砂防施設等の整備	国土交通省 林野庁・県 森林整備センター 伊豆市	○	○	○
被害対象を減少させるための対策	森林整備・保全	伊豆市	○	○	○
	立地適正化計画（作成中） ・居住や都市機能の誘導 ・居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める防災指針の作成	伊豆市	○	○	○
被害の軽減・早期復旧・復興のための対策	地区計画の活用	伊豆市	○	○	○
	洪水ハザードマップの作成・利活用	伊豆市	○	○	○
	被災後の早期復旧・復興を図るための洪水浸水区域の土地情報の整備	伊豆市	○	○	○
	マイタイムラインの推進およびこれを活用した訓練の実施	伊豆市	○	○	○
	防災出前講座の実施	伊豆市	○	○	○
	県総合防災アプリやSNSを活用した防災情報の提供	伊豆市	○	○	○
	災害時避難行動要支援者の個別避難行動計画・避難生活の安全を図るための「災害時ケアプラン」作成に向けた支援	伊豆市	○	○	○
	要配慮者施設の避難確保計画や地区防災計画の作成支援	伊豆市	○	○	○

赤字：R5実績
青字：R6予定



森林整備・保全イメージ（作業中）



水田貯留イメージ（水田の保全等）



消防団と自主防災組織の合同水防訓練

森林整備

県・市の森林整備事業、森林経営管理制度による間伐を実施
約96haの未整備森林を解消（R5）

狩野川源流の治水力向上に寄与

間伐前



間伐後



水害リスクマップ 浸水想定区域 0.5m以上



立地適正化計画

水害リスクマップを活用した分析を行い、計画
規模（狩野川1/100）の浸
水深0.5m以上のエリアは
災害リスクが特に高いた
め、居住誘導区域に含め
ないこととした。



防災教育

市内の中学校では、2年生で行う「総合的な学習
の時間」を未来の防災人材育成の時間として、ふじ
のくにジュニア防災士の取得までを狙った防災教育
を実施している。



DIG（災害図上訓練）
←



避難所運営訓練
（トイレブース組み立て）→

目標：治水と治山が連携した安心・安全なまちづくりを進める

■流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

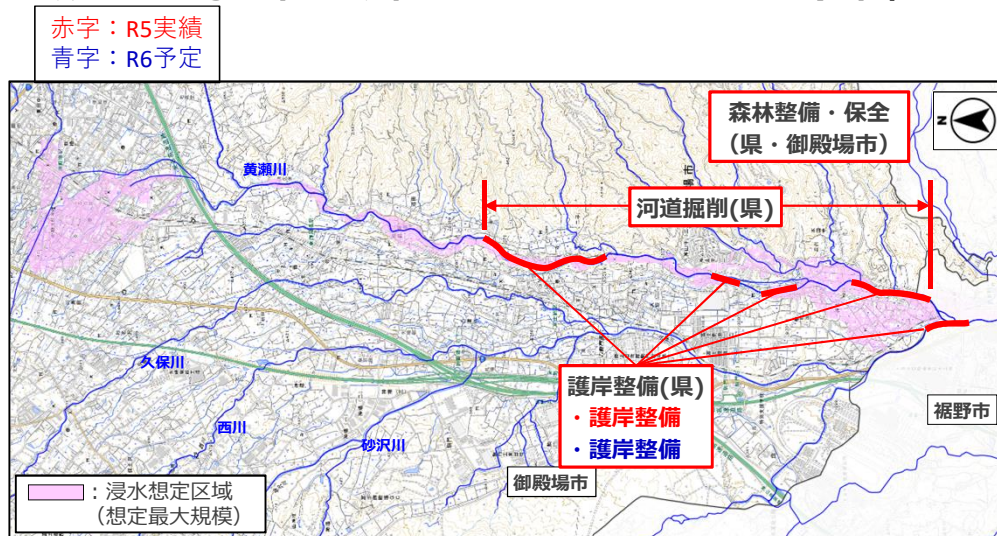
■御殿場市の地形の特徴

- ✓ 御殿場市は、県東部に位置し、富士山・箱根山などの山麓斜面に囲まれており、これらの斜面が黄瀬川で集合する凹型の地形となっていることから、浸水形態は流下型（下流側へ広がりやすい）となっています。
- ✓ 御殿場市内では、令和3年7月洪水にて黄瀬川沿川の複数地区で床下浸水などの被害が発生しましたが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の地形の特徴から、令和3年7月洪水以上に多くの地区で被害が発生することが想定され、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

■流域治水（御殿場市版）の対策メニュー（案）

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黄瀬川（支川含）河川整備	県	○	○	
	都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導	御殿場市			○
	森林整備・保全	県・御殿場市			○
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・内水ハザードマップの作成・利活用	御殿場市	○		
	マイ・タイムラインの推進 マイ・タイムラインを活用した訓練の実施				○
	防災出前講座の実施		○		
	洪水浸水想定区域内の避難促進施設の避難確保計画の策定及び訓練の実施				○
	気象観測システムの構築		○		

■御殿場市および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー(案)



※上記の対策は、今後の検討等により変更となる場合がある。

下図出典：国土地理院地図



土砂災害全国防災訓練



自主防災会を対象とした水防訓練

■ 概要(萩蕪区の取組み)

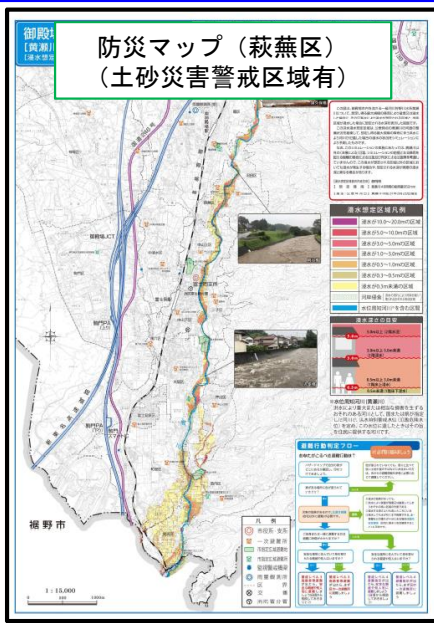
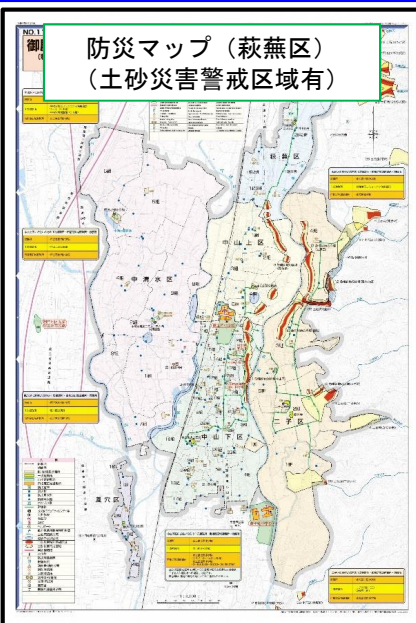
令和4年度から「土砂災害全国防災訓練」対象区に、わたしの避難計画を配付し活用を促しています。住民による主体的な避難行動の実施、防災意識の普及啓発に資する取組として、引き続き推進に努めます。



・自主防災会による防災訓練と説明



・自主防災会主導による「わたしの避難計画」作成



- ・自主防災会向けに説明会を実施し、自主防主体で訓練を計画し、わたしの避難計画作成を指導することができるよう準備を進め、実施した様子
- ・市内の洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域を有する地区に対し、同様の取り組み、訓練が実施できるよう進める



市担当者による、説明会、訓練指導の様子

目標：要配慮者施設の避難確保計画、地区防災計画の作成支援や防災情報提供の円滑化により事前防災対策充実を行うとともに、氾濫を防ぎ減らす対策を検討し実施する

■流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

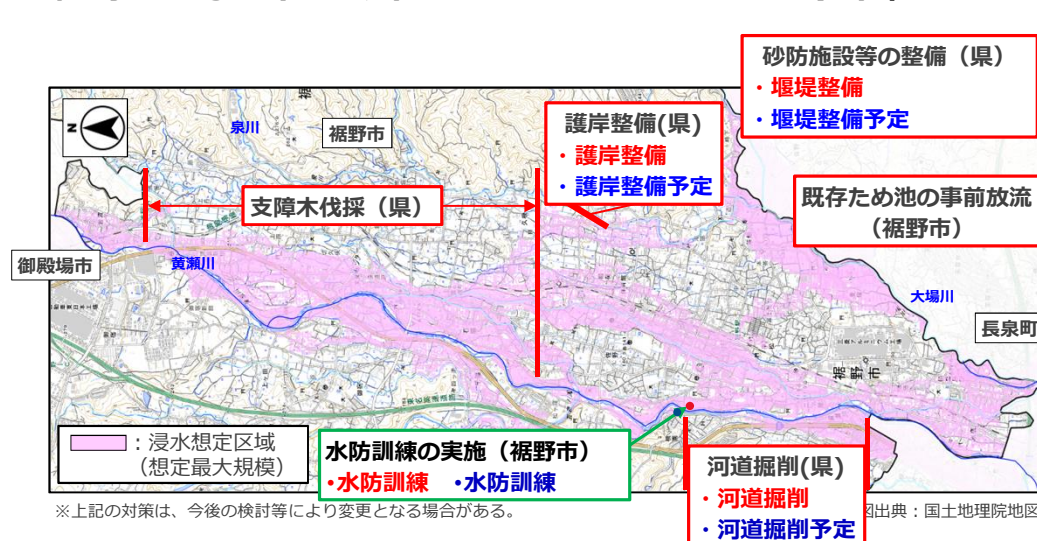
■裾野市の地形の特徴

- ✓ 裾野市は、県東部に位置し、富士山・愛鷹山・箱根山の3つの山麓斜面に囲まれており、これらの斜面が黄瀬川で集合する凹型の地形となっていることから、浸水形態は流下型（下流側へ広がりやすい）となっています。
- ✓ 裾野市内では、令和3年7月洪水にて黄瀬川沿川で床下浸水や護岸が被災するなどの被害が発生しましたが、想定最大規模の洪水発生時は、上記の地形の特徴から、令和3年7月洪水以上に多くの地区で被害が発生することが想定され、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

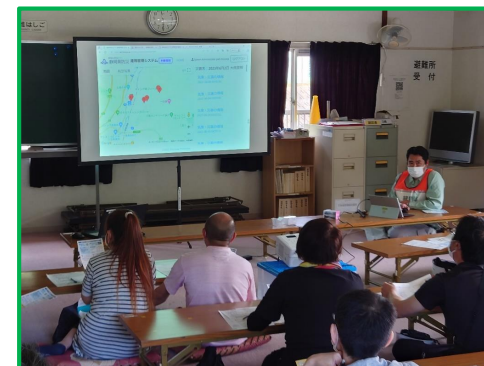
■流域治水（裾野市版）の対策メニュー（案）

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黄瀬川（支川含）河川整備	県	○	○	
	砂防施設等の整備		○		
	都市計画法開発許可に伴う調整池設置の指導	裾野市	○		
	ため池の事前放流等による調整容量の確保 排水機場の予備排水				○
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画 ・居住や都市機能の誘導 ・居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める防災指針の作成	裾野市			○
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・内水ハザードマップの作成・利活用	裾野市	○		
	マイタイムラインの推進 およびこれを活用した訓練の実施		○		
	防災出前講座の実施		○		
	県総合防災アプリやSNSを活用した 防災情報の提供		○		
	洪水浸水想定区域内の避難促進施設の 避難確保計画の策定及び訓練の実施		○		
	要配慮者施設の避難確保計画や 地区防災計画の作成支援		○		

■裾野市および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー（案）



赤字：R5実績
青字：R6予定



防災訓練や出前講座等を通じた
県防災アプリの利用促進・機能紹介



土のう積み訓練のようす（水防訓練）

令和5年度の活動報告（裾野市）

裾野市では、例年6月の土砂災害防止月間に合わせてモデル地区訓練を実施していました。

気候変動の影響で、近年は短時間で局地的な大雨が発生するケースが各地で増えています。市内でも、黄瀬川や佐野川沿いの地域などで護岸の崩落や浸水などの被害が発生していることから、水害に対する備えの必要性を再認識したところです。

こうした背景を踏まえ、本年度は、毎年6月の土砂災害防止月間に合わせて実施しているモデル地区訓練とは別に水防訓練を実施しました。

■水防訓練の概要

実施日：令和5年5月20日

会 場：黄瀬川東岸（佐野地先）、二本松公民館、裾野西小学校

参加者：地元区（元町区民、自主防災会ほか）、市地域地震防災指導員、裾野市消防団、陸上自衛隊、要配慮者利用施設関係者、危機管理課職員等 約140人



自衛隊の指導による土のう積み訓練
後半は公民館での研究会を終えた地元住民等も見学に訪れた



黄瀬川沿いの要配慮者利用施設の事業者・利用者にも参加してもらい、指定避難所までの経路の確認なども行った

地元住民は、公民館への避難行動（共助の活動）後、職員による研究会を開催し、県防災アプリの説明や意見交換を行い、水防の必要性・備えの重要性を認識してもらった



プール内の水を使った排水ポンプのデモンストレーション

■6年度の主な事業計画

- ・土砂災害防止月間モデル地区訓練内で水防訓練も併せて行う（桃園区内を予定）
- ・立地適正化計画の修正に着手予定（都市計画課）
→法改正に伴う防災指針の追加など
- ・静岡県防災アプリの利用促進（訓練等での活用）



目標：長泉町雨水排水路維持管理計画に基づく普通河川整備を進め、溢水を防止する。更に、国や県などの関係機関とのさらなる協力体制を築き、住民と連携した避難体制の強化を講じていく。

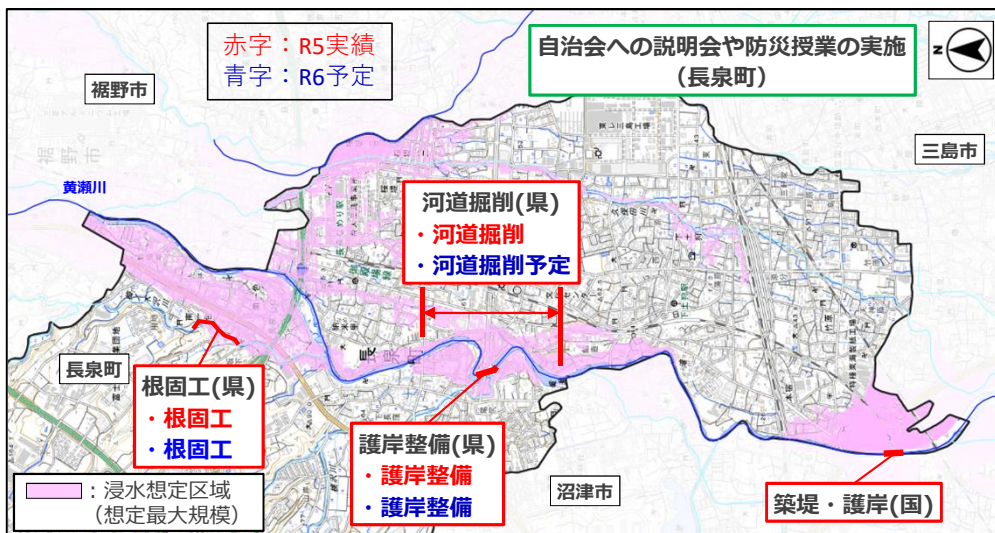
■流域治水プロジェクトとは

- ✓ 近年、気候変動の影響により水災害のリスクが増大しています。激甚化、頻発する豪雨災害に対し、流域のあらゆる関係者が主体的に水害対策に取り組む「流域治水」を進めていく必要があります。
- ✓ 流域治水プロジェクトは、気候変動による将来的な流出量の増加も踏まえ、長期的な河川および流域での対策の取組の考え方を念頭に、近年発生した洪水に対して被害軽減を図るため、短期、中期、中長期の施策をまとめたものです。

■長泉町の地形の特徴

- ✓ 長泉町は、県東部に位置し、町の北部は富士山から続く山地が大半を占め、南部は市街地が広がっており、各種工業施設も立地しています。
- ✓ はん濫形態は、上流（山地）は下流型、下流（市街地）は拡散型となっています。
- ✓ 長泉町内では、令和3年7月豪雨により黄瀬川沿川にて護岸が被災するなどの被害が発生しました。また、令和5年6月の豪雨では対岸の沼津市側ではありますが同じく護岸が被災しています。想定最大規模の洪水発生時は、上記の地形の特徴から、これまでに発生した豪雨以上に多くの地区で被害が発生することが想定され、一度水災害が発生すると甚大な被害が想定されるとともに復旧までに相当な時間を要する可能性があります。

■長泉町および関係機関の流域治水プロジェクト取組メニュー



※上記の対策は、今後の検討等により変更となる場合がある。

下図出典：国土地理院地図

■流域治水（長泉町版）の対策メニュー

3つの対策	対策メニュー（案）	主体	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	黄瀬川（支川含）河川整備	国土交通省・県	○	○	
	都市計画法開発許可に伴う調整地設置の指導	長泉町	○		
	公園緑地の整備				○
	長泉町雨水排水路維持管理計画に基づく普通河川整備				○
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画 ・居住誘導区域内で行う防災対策・安全確保策を定める防災指針の作成	長泉町	○		
	地区計画の活用 集約都市形成支援事業を活用した災害ハザードエリアからの移転促進に向けた調査				○
	土地利用の適正指導		○		
	宅地建物取引業団体への水災害リスク情報等の説明		○		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	洪水・内水ハザードマップの作成・利活用	長泉町	○		
	マイタイムラインの推進 およびこれを活用した訓練の実施			○	
	防災出前講座の実施		○		
	ハザードマップ内の社会福祉施設等に対する避難確保計画の策定や簡易な止水対策等の取組に対する支援		○		
	要配慮者施設の避難確保計画や地区防災計画の作成支援		○		



防災講座の実施（区長・防災会長参加）



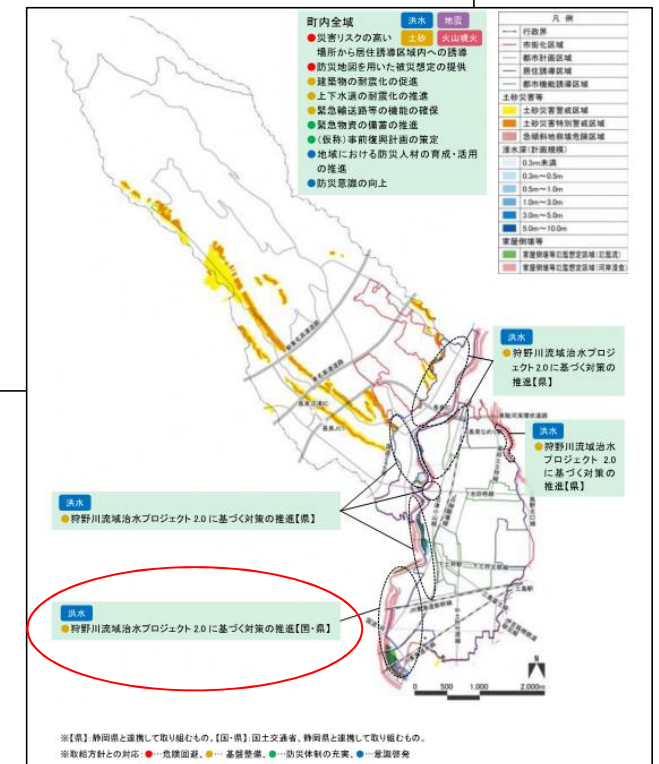
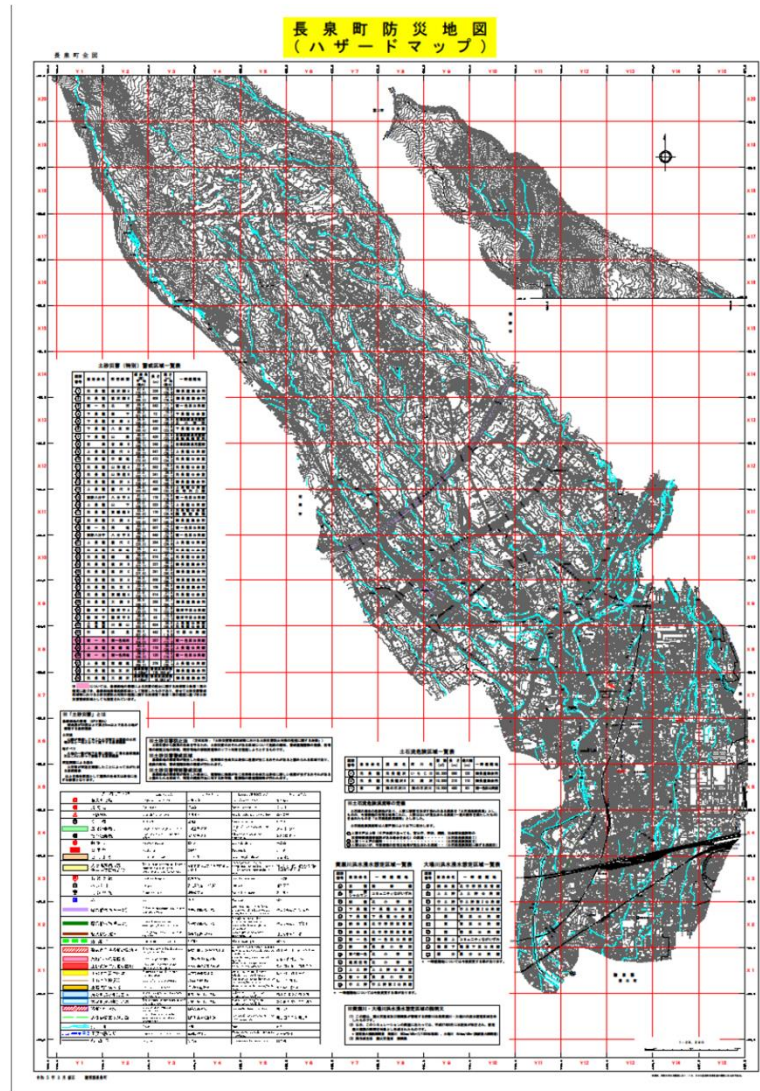
自衛隊員による防災講和（区長・防災会長参加）

■ 立地適正化計画策定の経過

平成30年7月 計画策定
 令和2年6月 都市再生特別措置法等の一部を改正する法律
 令和5年度 立地適正化計画の居住誘導区域内で行う防災対策
 防災指針の作成

■ 防災指針 検討の流れ

1. 基本的な考え方の整理
 - ・立地適正化計画と地域防災計画との連携
 - ・防災指針の基本的考え方
2. 災害リスクの分析と課題の整理
 - ・災害ハザード情報等の収集・整理
 災害種別を地震、洪水、土砂災害、火山噴火
 - ・災害リスクの高い地域等の抽出（ハザードマップと居住誘導区域等との重ね合わせ分析）
 - ・防災上の課題の整理
 土砂災害は市街化調整区域に存在
 地震は全町において震度6弱以上の地震、富士山噴火の降灰、溶岩流到達可能性
 黄瀬川、大場川沿いに洪水による浸水等
3. 取り組み方針
 - ・防災上の対応方針
 - ・取り組み方針
4. 施策と目標の設定
 - ・施策の設定
 - ・施策の内容
 - ・実現時期の目標設定
 - ・目標数値の設定
 目標：令和17年
 防災対策に取り組んでいる町民の割合
 54.3% ➡ 70.0%
 災害に関するメールやSNS等の登録者数
 16,819人 ➡ 現状維持



ちょうどいいが
 いちばんいい
 nagaizumi

その他河川の洪水浸水想定区域の指定に向けて

静岡県沼津土木事務所

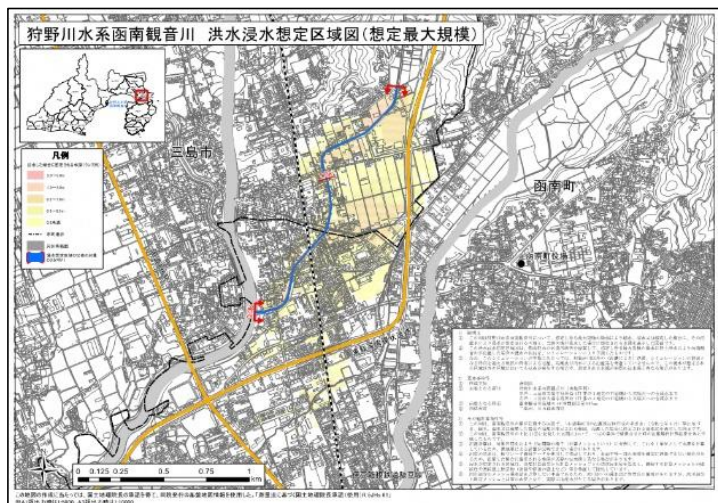
令和3年7月の改正水防法の施行に伴い、水害リスクの空白域を解消するため洪水予報河川又は水位周知河川以外の河川においても想定最大規模の洪水浸水想定区域図の作成を進めています。

今後、指定に向けた調整を各市町と進め、各市町単位での指定を予定していますので、洪水浸水想定区域内における要配慮者利用施設の抽出やハザードマップ作成のための準備をお願いします。

公表済河川

●R4.6.30公表（計16）
観音川ほか15河川

●R5.8.31公表（計13）
沼津江川ほか12河川



函南観音川洪水浸水想定区域図 R5.8公表

令和5年度作成河川（近日公表予定）

●次回公表予定（計40）

奥山川／冷川／柿木川／木橋川／入洞川／田沢川／京入道川／冷小川／下り沢川／修善寺深沢川／嵩田川／船原川／吉奈川／長野川／持越川／神戸川／年川／大見西川／中伊豆山田川／城川／梅木川／数沢川／猫越川／地蔵堂川／原保川／菅引川／徳永川／湯舟川／梅の木沢川／下和田川／佐野川／桃沢川／谷津川／裾野大久保川／用沢川／金沢川／又沢川／深良川／久保川／西川

令和7年3月まで
関係市町と区域指定に向けた調整
洪水浸水想定区域の指定（県告示）



令和7年4月以降
地域防災計画へ要配慮者利用施設の記載（市町）
ハザードマップの作成及び周知（市町）